

令和8年第3回市議会定例会一般質問一覧表

1 日 時 令和8年9月2日(水) 午前9時30分
令和8年9月3日(木) 午前9時30分

2 質問者 (質問順)

- | | | |
|--------------|------|--|
| (1) 新緑水クラブ | 100分 | (1 早川直久、2 坂本拓也、3 成田佳勉、4 小島直人、
5 加藤万博) |
| (2) 市友会 | 40分 | (6 安田 譲、7 今瀬和弘) |
| (3) 公明党 | 40分 | (8 井上純一、9 水谷栄志) |
| (4) 東海市民の会 | 20分 | (10 柿田嘉久) |
| (5) 参政党 | 20分 | (11 山内遼平) |
| (6) 日本共産党議員団 | 20分 | (12 坂 ゆかり) |

3 質問事項、要旨及び項目

質 問 者	1 早 川 直 久 議 員 (新緑水クラブ)		
質 問 事 項	質 問 要 旨	質 問 項 目	備 考
1 熊本地震を踏まえた防災対策について	1 令和8年7月28日に熊本県を震源とする地震が発生し、10年前と同じ最大震度7を観測した。住宅だけでなく、工場や大型商業施設、道路、橋梁、上下水道等の社会インフラにも甚大な被害が生じており、市民生活や企業活動が長期間にわたり大きな影響を受けている。臨海工業都市の本市においても、加木屋成岩断層の存在が指摘されており、近年南海トラフ巨大地震の発生も危惧されている。熊本地震を踏まえ、本市の防災・減災対策について、市の考えを問う	(1) 臨海部の工場について、市はどのような災害の発生を想定しているか。また、地震、津波、火災及び危険物漏えい等複合災害を想定した企業との連携、防災協定の締結及び合同防災訓練は十分に実施されているか (2) 本市では災害時に使用する救急車、消防車及び給水車等の災害対応車両の燃料確保について、優先供給体制は確立されているのか (3) 電気、ガス、水道及び通信等のライフラインの早期復旧体制はどのようなになっているのか (4) 本市では加木屋成岩断層について、どのような調査・評価を行い、地域防災計画へ反映しているのか (5) 平洲小学校周辺の断層や地盤の状況をどのように把握しているのか。また、マグニチュード7クラスの地震が発生した場合の平洲小学校の避難所としての安全性はどうか (6) 上下水道管について、震度7クラスの地震が発生した場合、どのような被害を想定し、耐震化・更新計画はどうか	
	2 災害時における避難者情報の集約・管理において避難者情報の検索や更新、関係部署との情報共有を迅速に行い、安否確認や要配慮者支援等の対応をスムーズに行うことができる体制の整備について市の考えを問う	(1) 災害時の避難所受付における避難者情報はどのように管理されているか (2) 災害時に円滑な避難所運営を実現するためには、避難者情報をデータベース化し、デジタルを活用した受付・管理体制の整備を進める必要があると考えるがどうか	

2 モデル地区コミュニティの取組について	1 本市が進めるコミュニティを中心とした地域運営体制づくりに向けたモデル地区として、令和4年度に緑陽、渡内、富木島ふれあい及び加木屋の4つのコミュニティが選定された。地域の将来像の策定とその実現や地域の活動拠点のあり方に関するワークショップ等が継続的に実施され、約4年が経過する中、モデル地区となっているコミュニティの取組について問う	(1) 令和4年度から令和7年度までのコミュニティを中心とした地域運営体制づくりに関するワークショップ及び地域の活動拠点のあり方検討会の実施回数はどうだろうか (2) コミュニティセンターが設置されている緑陽コミュニティを除く、3つのモデル地区における地域の活動拠点のあり方に関する地域の意向等はどうだろうか (3) 加木屋地区における活動拠点の整備計画について、どのように考えているか	
3 省エネ家電製品購入促進補助事業について	1 令和6年度に事業を開始してから令和8年度で3年目を迎える省エネ家電製品購入促進補助事業について、令和9年度から省エネ基準が変わり、エアコンの省エネ性能が低い機種は事実上製造できなくなるため、今後の事業についての市の考えを問う	(1) 事業開始からこれまでのエアコン、冷蔵庫の年度別の補助実績はどうか (2) 省エネ基準が変わることから家電店に並ぶ多くのエアコンが新基準に適合した製品となることが予想されるが、今後も補助事業は継続するのか (3) 冷蔵庫の補助事業は今後も継続するのか	
4 デマンド交通について	1 デマンド交通であるチョイソコとうかいは、令和6年10月から実証実験をしているが、本格運行を見据えた現時点での市の考え及び市の南部地区でも実施して欲しいと要望があるが、市の考えについて問う	(1) これまでの登録者数及び利用者数等の推移はどうか (2) これまでの実証実験の結果について、先行自治体と比較した場合における課題は何か (3) 費用対効果等を勘案して本格運行について、どのように考えているか (4) 市の南部地区での実証実験の考えはあるか	

質 問 者	2 坂 本 拓 也 議 員 (新緑水クラブ)		
質 問 事 項	質 問 要 旨	質 問 項 目	備 考
1 中学校屋内運動場の空調設備等について	1 令和8年熊本地震では、多くの避難所で厳しい避難生活が続き、空調設備等の重要性が改めて認識された。また、熊本県内ではL P ガス設備に関する事故も発生し、災害時における設備の安全確認や復旧体制の重要性が改めて注目されている。本市では、中学校屋内運動場に停電時にも稼働可能な空調設備等を整備し、避難所機能の向上を図っているが、災害時に本来の機能を十分発揮できるよう、運用体制や訓練の状況について、本市の考えを問う	(1) 中学校屋内運動場に設置している空調設備等について、災害時にはどのような安全機能が働き、避難所としての活用をどのように想定しているのか (2) 震度5程度の地震により安全装置が作動した場合、避難所として使用するまでの安全確認及び復旧手順はどのようなか。また、その役割分担はどのようなか (3) 避難所配備員、地域班配備員及び学校教員に対して、空調設備の復旧操作や運用方法について、どのような周知・訓練を行っているのか	

2 アジア競技大会カバディ競技について	1 アジア競技大会カバディ競技が、いよいよ本市で開催される。本市をはじめ、日本カバディ協会愛知県支部、東海カバディクラブ等の多くの関係者のご尽力により、カバディ競技の認知向上や子どもたちの受け皿づくりに取り組んできた結果、競技チケットは全日程完売となり、カバディ競技を会場で観戦できない市民からの問い合わせも多く寄せられている。開催市として迎える本番に向け、市民が一体となって大会を盛り上げるための、本市の取組について問う	(1) アジア競技大会開催を目前に控え、市民の機運の高まりを本市としてどのように捉えているか (2) 市民が一体となって大会を応援し、カバディ競技の魅力や感動を共有できるよう、本市での大会期間中にパブリックビューイング等のイベントを開催してはどうか	
----------------------------	--	---	--

質 問 者	3 成 田 佳 勉 議 員 （新緑水クラブ）		
質 問 事 項	質 問 要 旨	質 問 項 目	備 考
1 保育士確保の具体策について	1 保育士不足の改善策の一つとして現在実施している、保育実務経験者を対象とした再チャレンジ枠の採用について、新卒採用と同様の教養試験を課す現行の選考方法を見直し、保育実務経験や保育実践力、保護者対応力等を重視した面接や実技、ケーススタディを取り入れる等、即戦力となり得る人材を確保しやすい採用制度へ改善する考えについて問う	(1) 現在、保育職における再チャレンジ枠での採用試験内容はどのようなか (2) 再チャレンジ枠の応募へのハードルが下がることで、即戦力となり得る保育士確保へとつながることから、教養試験を廃止し、保育実践力等を重視した採用試験項目に変更してはどうか	
2 民間保育施設の運営体制について	1 令和8年4月に市内民間保育施設の1園が休園となったが、市の初動対応や保護者への支援等、今回の対応の検証及び課題認識について問うとともに、今後同様の事案を未然に防ぐための運営状況の把握や早期対応、認可後のフォロー体制等、安定的な保育体制の継続に向けた取組について問う	(1) 今回の事案を市はどの段階で、どのように把握したのか。また、該当事業者や保護者に対し、どのような対応を行ったのか (2) 今後、同様の事案が発生する可能性を市はどのように考え、対策していくのか	

3 子どもたちの健やかな成長環境について	1 年々暑さが増していく中、今夏、市内小学校の1年生を対象に、熱中症対策としてネッククーラー用の冷凍庫等が設置された。体力的なリスクや下校時間帯を考慮しての段階的な導入と考えられるが、下校距離や体力、暑さへの耐性は個々により大きく異なり、誰もが熱中症リスクを抱えていることから、全学年を対象とした冷凍庫等の設置等の熱中症対策について問う	(1) 今回の冷凍庫等の設置に要した費用はどのようなか (2) 子ども一人ひとりに対する熱中症のリスク軽減の観点から、全学年への早期の冷凍庫等の設置をすべきと考えるがどうか (3) 本市において、今後ますます幅広い熱中症対策が必要になると想定されるが、新たな対策として検討している取組はあるか	
	2 不登校傾向にある児童生徒を含め、困難に直面している子どもたちに対しては、多様な居場所が必要であるが、行政だけですべての受け皿を整備することには限界がある。地域では民間団体やNPO、ボランティア団体等が、それぞれの特色を生かしながら、子どもたちが安心して過ごせる居場所づくりに取り組んでいる。こうした、地域で活動する民間団体等を支える仕組みについて問う	(1) 不登校傾向にある児童生徒を含め、困難に直面している子どもの居場所づくりを行う民間団体等について、本市はどのように実態を把握しているか (2) これらの民間団体等が持続可能な運営体制をつくるための支援はどのようなものがあるか	

4 オーガニックビレッジの推進について	1 近年、国は、みどりの食料システム戦略に基づき、有機農業の拡大やオーガニックビレッジの形成を推進している。本市においても、減農薬技術の導入支援や学校給食での地場産物の活用等、環境に配慮した農業や地産地消に取り組んでいる。そこで、これまでの取組をさらに発展させ、有機農業や減農薬農業、学校給食への活用及び地産地消を一体的に推進する考えについて問う	(1) 本市において、国のみどりの食料システム戦略に基づいた有機農業の拡大、推進は行われているか (2) 国が推進するオーガニックビレッジとの連携も視野に入れた、有機農業や減農薬農業、学校給食への活用及び地産地消を一体的に推進する取組についてどのように考えているか	
5 環境対策について	1 本市の、特に南西部地域で生活する市民にとって、降下ばいじんによる影響は大きいと考える。第7次総合計画において、まちづくりの達成状況を測る指標であるめざそう値として降下ばいじん量を設定し、目標値の達成に向けて取り組んでいる中で、今後の具体的な対応について問う	(1) めざそう値はどのような考え方で10年後の目標値を設定しているのか。また、達成に向けてどのような対応を行い、降下ばいじん量の現状と今後の推移をどのように考えているか (2) 市内全体の平均値ではなく、測定地点における最大値を低減する考え方が必要と考えるがどうか	

質 問 者	4 小 島 直 人 議 員（新緑水クラブ）		
質 問 事 項	質 問 要 旨	質 問 項 目	備 考
1 学校プールについて	1 学校プールは、プールを使用する夏季を除き、藻が発生して緑色に濁り、虫が発生している箇所もある。一方で、水を抜いた状態を続けると、プール防水層の劣化やポンプ内部の動作不良にもつながる恐れがある。学校プール使用に向けた水の入れ替えには、多額の清掃費や水道料等がかかることから、今後の学校プールの在り方等について問う	(1) 現在の学校プールの使用状況はどうか (2) 現在使用していない学校プールについて、水質汚濁、草木の繁茂等、周辺環境への悪影響が懸念されるため、今後も解体を進める考えはどうか (3) 上野中学校プールについて、施設の使用状況から近隣のしあわせ村や保育園等に対し、積極的な活用を促すべきと考えるがどうか	
2 しあわせ村駐車場について	1 しあわせ村の駐車場は、公園でのイベント開催時のほか施設内での子どもの健診実施時等で満車になることが度々あり、利用者から困っているとの声を聞いているため、駐車場整備等の考えについて問う	(1) しあわせ村駐車場の駐車可能台数及び現在の利用状況はどうか (2) 満車となる場合をどのように把握しているか。また、不足台数の見込みはどうか (3) 今後、しあわせ村第1駐車場の拡大や立体駐車場の整備を含め、駐車場確保の考えはどうか	
	2 しあわせ村第1駐車場の一部エリアが、しあわせ村施設内に事務所を有する社会福祉協議会等の所有自動車の駐車場として利用されているが、混雑状況を踏まえ、一時的にしあわせ村利用者に開放する等、今後の対応への考えについて問う	(1) しあわせ村第1駐車場に駐車している社会福祉協議会等の所有自動車数を把握しているか。また、社会福祉協議会等が所有している自動車の管理の在り方について、団体等と協議する考えはあるか	

3 黒腐菌核病発生による玉ねぎの処分について	1 玉ねぎは本市でも多く作られているが、愛知県の伝統野菜である養父早生や愛知白早生にも黒腐菌核病が発生している。伝統野菜を守っていくため、現在、土壌消毒剤等で防除しているが、黒腐菌核病等にかかった玉ねぎの処理方法等について問う	(1) 黒腐菌核病は本市においてどのように発生しているか (2) 病気になった玉ねぎの処分方法の把握状況はどのようなか	
-------------------------------	--	--	--

質 問 者	5 加 藤 万 博 議 員 （新緑水クラブ）		
質 問 事 項	質 問 要 旨	質 問 項 目	備 考
1 公園内への壁打ち施設の設置について	1 ボールを使った壁打ち施設を身近な公園内に確保することは、子どもたちが気軽に運動する機会を充実させるだけでなく、保護者がスポーツ少年団等の練習場所まで送迎する時間的な負担や、スポーツ施設等を利用する際の経済的な負担を軽減する等、子育て世代を支える環境づくりにも繋がると考える。そこで、身近な公園を有効に活用する観点から、公園の規模や立地条件、周辺環境、利用状況等を踏まえ、壁打ち施設の設置に当たって想定される課題があると考え、公園内に壁打ち施設を設置する可能性について、市の考えを問う	(1) 市内の公園における壁打ち施設の設置状況及び利用状況はどのようなか (2) 市内の各地区に配置されている公園に壁打ち施設を設置する考えはあるか。また、公園に壁打ち施設を設置する場合、どのような課題が想定されると考えているか	

2 消防団の持続可能な体制の整備について	1 消防団員の減少が続く中、直近では熊本地震が発生し、今後は南海トラフ地震の発生も懸念され、消防団の担う役割は一層重要性を増している。しかしながら、団員の担い手不足により、各分団の活動人員の減少や活動率の低下が懸念される。市民の生命・財産を守るため、現役団員の継続的な活動支援と大規模災害時に必要な装備・資機材の充実を含めた、持続可能な消防団体制の構築に向けた取組について問う	(1) 過去3年間の消防団員の活動人員や活動率はどのようなか (2) 令和7年度、活動実績が乏しく、今後の消防団活動への参加も見込めない団員等が大幅に退団した経緯があるが、消防団員の定数を見直す考えはあるか (3) 消防団員が活動しやすい環境を整備することで、退団者数の減少に繋がるものとするが、その1つとして消防団員の負担軽減に向けた取組はどのようなか (4) 常備消防力を上回る火災が発生した際には、消防団員や防火協力会の活動が不可欠であるとするが、消火活動に必要な装備は十分整備されているか (5) 大規模地震発生時には、倒壊家屋からの救助活動等が想定されるが、必要な資機材の整備状況はどのようなか。また、今後、充実強化に向けて新たな体制を整備していく計画はあるか	
3 衛生用品の防災備蓄について	1 災害時において、衛生用品の中で生理用品、高齢者用紙おむつ、乳幼児用紙おむつ等、避難者の生活に欠かすことのできない備蓄品を必要とする方へ確実に届けることは非常に重要である。そこで、適正な備蓄数量の確保と保管・更新を含めた管理方法、避難所における避難者に配慮した配布の方法及び備蓄品が不足した場合の調達体制を整え、衛生用品の防災備蓄体制の充実を図ることについて問う	(1) 備蓄されている衛生用品の中で生理用品、高齢者用紙おむつ、乳幼児用紙おむつについての備蓄数量の算出方法はどのようなか。また、保管場所、各数量はどのようなか (2) 入れ替え対象となった備蓄品の廃棄ロス削減に向けた取組はどのようなか (3) 避難所での生理用品、高齢者用紙おむつ、乳幼児用紙おむつの配布の方法はどのようなか。また、自ら配布を申し出ることができない避難者に対する配慮の考えはどのようなか (4) 衛生用品の備蓄が不足した場合について、調達方法はどのようなか	

4 創造の杜交流館の利用促進について	1 創造の杜交流館がより多くの市民に親しまれ、気軽に利用される施設となるよう、映画鑑賞者数や各部屋の利用状況を把握し、分析するとともに、市民のニーズを取り入れた映画上映の工夫やイベント等による施設の魅力発信を進め、認知度の向上と更なる利用促進を図ることについて問う	(1) 映画の鑑賞者数の推移と市内・市外の比率はどのようなか。また、とうかいシネマDay等、鑑賞料金のサービスが実施されているが、効果はどのようなか (2) 上映する映画の選定について、市民の意見を反映させる等、更なる利用促進に向けた工夫をしてはどうか (3) 令和7年度と令和8年度の4月から7月までの各部屋の利用率の平均はどのようなか。また、利用者が少ない理由をどのように捉えているか (4) より多くの市民に創造の杜交流館を知ってもらうために、気軽に立ち寄れるイベント等を実施してはどうか	
---------------------------	---	---	--

質 問 者	6 安 田 議 員 (市友会)		
質 問 事 項	質 問 要 旨	質 問 項 目	備 考
1 ものづくり道場の 取組について	1 ものづくりが盛んな本市の地域 特性を踏まえ、子どもたちの豊かな 人間性や創造性を育み、自らの手 で形にするという楽しさと達成感 を体験することで次世代を担う子 どもたちに、ものづくりへの興味 や関心を持ってもらうことを目 的に開催している東海市ものづく り道場について、実施状況と今後 の考えを問う	(1) 令和8年度の体験講座数及び延べ参加人数はどうか。また、参加した子どもたちの地域・学区に偏りはあるか (2) 参加した子どもたちのものづくりに対する関心度の変化をどのように把握し、評価しているか (3) 令和8年度の開催において、新たな取組や改善内容にはどのようなものがあるか (4) 第9回の開催を終え、新たな問題点や課題はあったか。また、どのように整理し、改善に結びつけるのか (5) より多くの子どもたちに体験・体感をしてもらうためには、より多くの団体及び企業との協働が必要であると考えますが、団体及び企業への呼び掛けはどのように行われているか。また、新たな参加団体及び企業はあったか (6) 令和9年度には節目となる第10回の開催を迎えるが、記念事業として開催する考えはあるか	

2 脱炭素化に向けた取組について	1 2050年カーボンニュートラルの実現に向け、本市はゼロカーボンシティ宣言を表明するとともに、2021年に策定された地球温暖化対策実行計画（事務事業編）では、削減目標を明確に示し、地域全体での温室効果ガス排出量削減に向けた取組を推進している。市民や事業者の自主的・積極的な取組を促すためにも市の率先した取組が重要となることから、本市の取組状況について問う	(1) 直近3年間における本市の温室効果ガス排出量の推移はどのようなか。また、目標達成に向けた進捗状況はどのようなか (2) 公共施設において、省エネルギー改修となるLED化や高効率設備への更新等はどのように行われているか (3) 本市が率先して脱炭素化を推進する上で、目標達成に向けた今後の課題をどのように捉えているか	
	2 本市が保有する公共施設から排出される温室効果ガスは、電気使用によるものが多くを占めていることから、公共施設への再生可能エネルギー導入は重要な課題であると認識している。しかし、施設の耐荷重や屋根形状等により、従来型の太陽光パネルの設置が困難なケースもあることから、そのような課題への対応として次世代技術の活用も必要であると考え。県主導のあいちペロブスカイト太陽電池推進協議会に参画していることから、本技術に対する認識と今後の活用について、本市の考えを問う	(1) 公共施設への再生可能エネルギー導入の必要性をどのように考えているか (2) 次世代技術であるペロブスカイト太陽電池についての現状をどのように認識しているか (3) ペロブスカイト太陽電池を今後の脱炭素化の選択肢としてどのように捉えているか。また、導入可能な公共施設についてどのように考えているか	

質 問 者	7 今 瀬 和 弘 議 員 （市友会）		
質 問 事 項	質 問 要 旨	質 問 項 目	備 考
1 障がい者の雇用促進に向けた取組について	1 障がいのある方の就労機会の創出や社会参加を促進する目的として、「わーくはびねす農園あいち東海」を運営する事業者と連携協定を締結し、農業を通じた障がい者雇用の場づくりが進められてきた。これまでの連携実績と成果及び今後の取組について、本市の考えを問う	(1) 開設から現在まで利用している企業数及び雇用されている障がい者の人数はどのようなか。また、市内在住の障がい者の利用状況や定着の状況を把握しているか (2) 市内企業に対して、農園の取組について、どのような周知をしてきたか (3) 農園での障がい者の雇用創出や社会参加について、市はどのような成果を把握しているか (4) 障がい者が役割を持ちながら地域の中で働き、充実した社会参加をしていくために、今後どのように連携していく考えか	
2 小中学校における水泳授業の現状について	1 近年、全国的に学校プールの老朽化や維持管理費の増加、猛暑による授業中止、さらには民間施設の活用等、水泳授業を取り巻く環境は大きく変化している。また、水泳は体力向上だけでなく、水難事故から命を守るための重要な教育でもある。そこで、小中学校における水泳授業の現状と今後の取組について問う	(1) 各小中学校における年間授業時数及び実施回数はどうだろうか。また、天候による中止の実態はどうだろうか (2) 学校プールの利用状況はどうだろうか。また、水泳授業以外で活用している事例はあるか (3) 民間施設等を活用した、水泳授業の導入状況と効果・課題はどうだろうか (4) 水難事故から身を守る着衣泳等の安全教育はどのように行われているか (5) 子どもたちの水泳技能習得と安全教育を両立するため、今後どのような水泳授業を目指していくのか	

3 児童生徒の健康管理と食事確保について	1 近年、猛暑が常態化し、熱中症対策は学校運営における重要な課題となっている。そのような中、1学期終業式後は、給食を実施せず空腹状態で炎天下を下校することにより、体力や集中力の低下を招き、熱中症リスクを高めることが懸念されるが市の考えについて問う	(1) 下校時の熱中症予防のための配慮や、保護者への注意喚起はどのようなか (2) 空腹状態での炎天下の下校は、熱中症リスクを高める要因と考えるが市の考えはどのようなか	
	2 夏休み期間中は昼食の確保は各家庭に委ねられることになる。本市では放課後児童クラブ利用者への昼食提供等の取組が行われている一方、愛知県みよし市では、夏休み期間中の子どもたちの昼食確保と居場所づくりを目的として「公共施設での食事支援事業」を実施している。すべての子どもたちが夏休み期間中に必要な昼食を確保できる環境づくりについて、市の考えを問う	(1) 本市においても、すべての子どもたちが夏休み期間中に昼食を確保できるように取り組む考えはあるか	

4 生活道路・通学路における安全対策について	1 子どもや高齢者をはじめとする歩行者の安全確保は、安心安全なまちづくりの基盤となるものであるが、生活道路や通学路では、通り抜け車両による速度超過や巻き込み事故のリスクが常に潜んでいる。こうした中、本市では視覚的に通学路等を認識させるグリーンベルトの設置や一定の区域全体で車両の最高速度を時速30kmに制限するゾーン30の整備が進められているが、道路交通法の改正により令和8年9月1日から生活道路における自動車の法定速度が時速30kmに引き下げられたことを受け、本市の生活道路・通学路の安全対策の現状と今後の方向性について問う	(1) 通学路へのグリーンベルトの設置要望から施工に至るまでの手順はどのようなか (2) 本市のゾーン30の整備状況はどのようなか。また、整備エリアにおける、車両の速度抑制や事故減少等の効果をどのように捉えているか (3) 今回の法改正の影響を受ける生活道路とはどのような道路を指すか (4) 生活道路の法定速度が時速30kmに引き下げられたことで、どのような影響があると考えているか。また、市の対応はどのようなか (5) 速度規制に加え、ハンプや狭さく等、物理的デバイスを設置することで、より車両の速度を抑制し安全性を高めることが可能となると考えるが、今後の生活道路・通学路の安全対策をどのように進めていくのか	
-------------------------------	--	---	--

質 問 者	8 井 上 純 一 議 員 (公明党)		
質 問 事 項	質 問 要 旨	質 問 項 目	備 考
1 防災市民憲章の制定について	1 本市における防災対策は、ハード・ソフト両面で着実に進められている。しかし、災害時には行政の備えだけでなく、住民同士の近助・共助が重要である。品川区や釜石市の事例を参考に、日常のあいさつや地域のつながり、自助・共助の意識、災害の教訓の継承、訓練への参加等を盛り込んだ「東海市防災市民憲章」を市民参加で制定し、市民の防災意識向上と地域で支え合う防災文化の醸成につなげる考えについて問う	(1) 市民の防災意識と地域の共助意識を高めるため、「東海市防災市民憲章」を制定し、防災文化の醸成につなげてはどうか	
2 歩行空間の整備について	1 高齢化により運転免許証の返納が進む中、歩道の段差や傾斜、狭さ、路面の凹凸は、高齢者やシニアカー、車椅子利用者の安全な移動を妨げている。東海市総合交通戦略では、「自家用車に過度に頼らないで暮らせる交通体系が確立されているまち」を掲げており、歩行空間の整備は市の計画に明確に位置付けられている。歩行空間の整備を道路行政の優先事項として予算を確保し、計画的に進める考えについて問う	(1) 歩道の段差や傾斜、路面の凹凸等、高齢者やシニアカー、車椅子利用者にとって危険となる箇所をどのように把握し、改善につなげているのか (2) 今後、歩行空間の整備を道路行政の優先事項に位置付けて予算を確保し、計画的に取り組むべきと考えるがどうか	

3 身寄りがない高齢者の支援体制について	1 高齢化や単身世帯の増加に伴い、身寄りがなく、入院・施設入所・死後事務等の支援を受けにくい高齢者の増加が懸念される。本市の「高齢者あんしん見守り登録」、知多地域権利擁護支援センターの「くらしあんしんサポート事業」、成年後見制度を切れ目なくつなぐ支援体制の構築及び高齢者サロンやSNS等を活用した積極的な情報提供の考えについて問う	(1) 身寄りがない、または親族からの支援を期待することが難しい高齢者を、どのようにして必要な支援につなげているのか (2) 身寄りがない高齢者を切れ目なく支える体制を広く市民へ周知するため、広報とかいやホームページに掲載するだけでなく、高齢者サロンやSNS等で積極的に情報発信してはどうか	
4 産後ケア事業について	1 産後の母親が母乳不足や授乳トラブル、乳腺炎等の悩みを抱える中で、核家族化や地域のつながりの希薄化により、孤立するケースが増えている。母乳外来への受診は、授乳指導や乳房ケアに加え、育児不安の軽減や産後うつ予防にもつながる。大府市の短時間日帰り型を参考に、本市の母乳相談の実態を把握・分析し、産後ケア事業に母乳ケアを中心とした短時間日帰り型を新設する考えについて問う	(1) 母乳や授乳に関する相談はどの程度寄せられているのか。また、その相談内容をどのように分析しているのか (2) 産後ケア事業に、母乳ケアを中心とした短時間日帰り型を新設してはどうか	

5 ケアラー支援について	1 家族の介護や看病等を担うケアラーは、自ら支援を求めにくく、心身の負担や孤立が深刻化する場合がある。そこで、介護・子育て・障がい・医療等を横断する相談窓口と庁内連携の現状、学校現場におけるヤングケアラーの早期発見と支援機関との連携体制及びケアを家庭だけの責任とせず、社会全体で支える理念を明確にするための取組について問う	(1) ケアラー支援は、介護・子育て・障がい・医療等複数の部署にまたがるが、これを一体的に支える相談窓口や庁内連携の仕組みはどのようなか (2) 学校現場におけるヤングケアラーの早期発見を支援機関とどのように連携し、支援につなげているのか (3) 三重県名張市では、ケアラー支援条例を制定し、社会全体で支援する姿勢を明確にしている。本市でもケアラーを社会インフラの担い手として認め、社会全体で支えていくという理念を様々な手法により広めていくべきと考えるがどうか	
---------------------	--	---	--

質 問 者	9 水 谷 栄 志 議 員 (公明党)		
質 問 事 項	質 問 要 旨	質 問 項 目	備 考
1 小中学校における火災対策について	1 令和8年6月に東京都北区の小中学校で発生した火災では、防火扉の閉鎖により廊下に煙が充満したことから、児童が窓の外のひさしから救助される緊迫した事態となった。一步間違えれば大惨事になりかねない事例を踏まえ、本市の小中学校における防火設備及び避難器具の運用状況並びに有事における教職員の対応能力の現状と課題解決の取組をふまえた対策を問う	(1) 市内小中学校に、設置されている防火扉、防火シャッター等の防火設備及び救助袋、避難はしご等の避難器具の現在の整備状況はどのようなか (2) 有事の際に、教職員が防火設備の連動の仕組みや避難器具の具体的な展開・操作手順を正しく理解し、即座に扱えるようにするために、取り組んでいることはあるか。また、実践的・体験的な避難訓練の実施状況及び今後の強化策はどうか	
	2 火災発生時の避難経路の確保及び特別教室等の異なる環境下における火災避難計画や防災マニュアルの策定状況と実効性について本市の考えを問う	(1) 各小中学校における火災避難計画や防災マニュアルにおいて、通常の避難経路が煙や火の手で遮断された場合を想定した第2・第3の代替避難ルートは検討しているか	

質 問 者	10 柿 田 嘉 久 議 員 （東海市民の会）		
質 問 事 項	質 問 要 旨	質 問 項 目	備 考
1 本市のふるさと納税について	1 令和8年8月4日の中日新聞朝刊の知多版では、東海市のふるさと納税による市税の流出額は5億円を超えとの記事があった。年々増える市税流出による損失を防ぐため、ふるさと納税の寄附額を増やす取組等について問う	(1) 過去5年間における本市のふるさと納税の受入額及び受入件数はどのようなか (2) 知多半島4市の寄附状況をどのように把握しているか (3) ふるさと納税寄附額の増額を目指し、日本福祉大学及び星城大学と連携しているが、詳細はどのようなか (4) 動画によるPR以外に、今後、本市はどのような取組を考えているか	
2 登下校時の危険予知能力の育成等について	1 全国的に、登下校中の事故により児童生徒が大きな障害を負う事例が発生しており、登下校時における安全対策が求められている。登下校時は、教職員や保護者の目が届かない時間が生じるため、児童生徒が自ら危険を予測し、的確な安全行動を選択できる力を育成することが大切であると考えことから本市の現状と考えについて問う	(1) 通学路における危険箇所及びヒヤリハットの実態をどのように把握しているか (2) 危険箇所の改善状況や通学路の安全対策について、警察、道路管理者等とどのように連携を図っているのか (3) 危険予知トレーニング登校を実施している市内小学校及びその具体的な実施内容はどのようなか (4) 今後、児童生徒の登下校時における危険予知能力や判断力をどのように育成していくのか	

3 小中学校における火災対策について	1 令和8年6月19日に東京都北区の小学校で火災が発生し、児童や教職員が負傷する事態となった。この火災を受け、児童生徒が一日の多くを過ごす小中学校において、火災予防や発生時の安全を確保することは最優先であると考えことから、本市の小中学校における火災対策について問う	(1) 東京都北区で発生した火災を受けて、小中学校における避難経路の緊急点検の実施状況はどのようなか (2) 小中学校における火災予防体制はどのようなか (3) 火災発生時の初動対応を想定した訓練をどのように実施しているか (4) 老朽化した防災設備の更新計画はどのようなか	
---------------------------	---	---	--

質 問 者	11 山 内 遼 平 議 員 (参政党)		
質 問 事 項	質 問 要 旨	質 問 項 目	備 考
1 文化財等の保護と災害対策の在り方について	1 本市の伝統ある祭りの山車をはじめとする有形文化財等の保護及び保全が必要不可欠である。近年、報道が相次いでいる日本全体の神社仏閣火災及び令和8年の市の火災状況を鑑み、文化財及び文化遺産と市民の生命及び財産の双方を護るうえで、適切な注意喚起と予防策の実行が必要と考える。文化財等保護の現状、市民に対する情報共有及び講じるべき対策について市の方針を問う	(1) 指定文化財補助事業における過去3年間の補助件数及び合計金額はどのようなか。また、補助率1/2以内の「その他」にはどのような事例が含まれるか (2) 保存事業については定額補助であるが、物価上昇等により市民負担が増加するリスクはないか。また、補助額の過去3年間の推移はどのようなか (3) 文化財普及啓発事業の予算が令和7年度から令和8年度にかけて約8割減少しているが、令和7年度に実施した内容及び予算が減額した理由はどのようなか。また、文化財防火デーを市民が地域の文化財を知る普及啓発の機会として活用する意義があると考え、市の方針はどのようなか (4) 火災予防を広く市民に啓発する住宅防火診断等を神社仏閣等の文化遺産において行ったことはあるか。また、積極的に文化遺産へ適用することがレガシー継承に有効と考えるが市の方針はどのようなか	

2 地域ねこ活動推進事業等の実施状況について	1 本市では地域ねこ活動等、愛護動物の適切な飼育の推進を図っている。動物との関わりあいにより、精神的な安寧を享受できる等、住民福祉の増進に効果が見込まれる。一方で、アレルギーや野生化した猫が住環境に影響を及ぼすこともあり、適切な保護管理の下で猫との共生を進めることが肝要である。国及び県の管轄で推進される動物愛護施策の中で、本市ではボランティアの地域ねこ活動を支援する施策が継続されているが、従来の取組について評価と展望を問う	(1) 地域ねこ活動の周知・推進のための説明会について過去5年間の実施状況はどのようなか (2) 本市で活動している地域ねこ活動団体との意見交換はどのように行っているか。また、情報交換される内容はどのようなか (3) 猫避妊等補助事業の過去5年間の実施状況はどのようなか (4) 近年の地域ねこ活動の取組を通じてどのような改善がなされたと評価しているか	
3 予防接種事業の見直しと健康推進について	1 コロナワクチン接種データ開示請求プロジェクトにおいて令和8年6月9日時点で開示された80,070人分の接種後の死亡事例等のデータが集積され、接種回数313,423回に対して死亡数2,452名で死亡率0.782%と示されている。全国的に副反応疑い報告や予防接種健康被害救済制度の認定が増加し、mRNAワクチンの再審査期間は途上である中、本市におけるワクチン等接種の現状について問う	(1) 本市で接種することのできる新型コロナワクチンの種類はどのようなか。また、種類ごとに接種可能な医療機関を市民に対してどのように情報提供しているか (2) 新型コロナmRNA型の注射の使用について、医薬品医療機器総合機構（PMDA）の副反応疑い報告及びワクチン問題研究会等の報告は判断材料としているか。また、予防接種事業において参考としている文献や報告はどのようなか (3) 本市の65歳以上の方が新型コロナワクチン接種時に負担する金額の設定はどのように行っているか (4) 本市の予防接種事業委託にあたり、ワクチンの購入は市で行うか。また、ワクチンの種類によって納入価は異なるが、本市の委託料はその価格差をどのように扱っているか (5) 本市の予防接種事業の決算額は過去5年間でどのように推移しているか	

	2 予防接種に限らず、市民の健康増進に寄与する様々な取組がある。健康診断や各種検診により病気を早期発見することや、食生活及び運動習慣の改善により健康な身体をつくることも市民の健康増進に寄与する。市民の健康づくりに対する本市の考えと今後の取組について問う	(1) 本市のがん検診事業の決算額は過去5年間でどのように推移しているか。また、受診についての関心を高める啓発にはどのような取組があるか (2) 本市において、住民の健康増進を図るための計画はどのように策定したか	
--	---	--	--

質 問 者	12 坂 ゆかり 議 員 （日本共産党議員団）		
質 問 事 項	質 問 要 旨	質 問 項 目	備 考
1 大規模災害時の避難生活支援について	1 令和8年7月28日に発生した令和8年熊本地震は、最大震度7を観測し、災害関連死を含め38人が死亡し、約3,000人が避難所での生活を余儀なくされている。内閣府は、平成25年8月に「避難所における良好な生活環境の確保に向けた取組指針」を策定しており、令和6年12月に改定している。また、愛知県は、令和8年6月に、「2024年度～2025年度愛知県南海トラフ地震被害予測調査結果」を公表したが、本市における防災・減災対策について問う	(1) 愛知県南海トラフ地震被害予測調査結果において、本市の被害予測をどのように分析しているか (2) 大規模災害において、車や自宅等で避難生活を送る人が多くなることも想定されるが、避難者の把握方法や救援物資を届ける方法をどのように考えているか (3) 大規模災害を想定した市民の防災対策の取組を進めるためにも、防災用品の購入に対し補助するべきと考えるがどうか	

2 「朝の小1の壁」について	1 「小1の壁」とは、子どもが小学校に入学するタイミングにおいて直面する様々な課題や困難を指すものである。中でも「朝の小1の壁」と呼ばれる問題は、保育園における早朝保育の預かり開始時間に比べて小学校では登校時間が1時間程度遅くなることにより生じるもので、仕事と育児の両立が難しくなることから子育て世帯にとって大きな問題となっているが、本市の方策について問う	(1) 公立保育園における早朝保育を利用する園児数はどのようなか。 また、そのうち年長児の人数はどのようなか (2) 本市の小学生の朝の居場所づくりの必要性についてはどのように考えているか (3) 大府市と半田市では、小学生の早朝の居場所づくり事業を実施しているが、本市も実施する考えはあるか	
3 再生資源物の野積みに対する対策について	1 コロナ禍であった令和2年頃から、東海市リサイクルセンターの北東の事業者敷地内にフレコンバッグが野積みされ、最近ではフレコンバッグの一部が劣化し、中身がむき出しになっている状況も見られる。地域住民が不安を感じている中で、市内全域の同様な事例に対する、最近の市の対応及び今後の対策について問う	(1) 市内において、フレコンバッグが野積みされた箇所があるが、市民からどのような相談、苦情があったか (2) リサイクルセンター隣接地に集積されているフレコンバッグの増減状況や保管方法について、市としてどのように把握や要望等をしてきたか (3) 令和8年6月に成立した廃棄物処理法の一部改正により、スクラップヤードの規制強化が図られることとなるが、これによりどのような改善が期待できると考えるか	

4 臨海部企業における防火対策について	1 令和8年8月11日に発生した大同特殊鋼㈱知多工場内のスクラップヤードにおける火災は、鎮火まで105時間以上を要し、延べ600人以上の消防隊員による消火活動が行われたとのことだが、市内の臨海部企業の同様の施設に対する防火対策について問う	(1) 火災の鎮火までに105時間以上要した原因をどのように考えているか (2) 臨海部企業内のスクラップヤードにおいて、どのような防火対策が講じられているかを把握しているか。また、今後、市として防火対策の強化を求めているか考えはあるか	
----------------------------	--	---	--